

九州大学 大学文書館ニュース

第36号

2011.12.15

目 次

九州大学七十五年史の編集・執筆を顧みて… 2	九州大学百年史編集小委員会名簿……………11
福岡大学の年史編纂について…………… 4	九州大学百年史編集室名簿……………11
九州大学大学文書館委員会名簿…………… 6	百年史編集室日誌抄録……………11
九州大学大学文書館名簿…………… 6	『九州大学百年史写真集』の刊行について…………12
受贈図書一覧…………… 7	九州大学六本松地区模型について…………12
大学文書館日誌抄録…………… 8	



「工学部創立75周年記念庭園」 (1986年)

九州大学は九州帝国大学が設置された明治44年(1911)を創立年としている。昭和61年(1986)は創立75周年にあたり、5月に記念式典が挙行された。この時の記念事業は他に『九州大学75年史』の編集が主なものであったが、工学部は同学部自体でも記念事業を行った。その一つが工学部記念庭園の建設である。庭園は工科大学最初の建物である工学部事務室跡に作られた。設計者は創立五十周年記念講堂(昭和42年竣工)と同じく、建築学科の光吉健次教授で、同講堂との調和を配慮して設計・配置が行われている(昭和61年2月完成)。写真は建設当時の工学部創立75周年記念庭園の様子である。

九州大学七十五年史の編集・執筆を顧みて

柴 多 一 雄

九州大学は今年創立100周年を迎え、記念事業の一環として百年史の編集が計画され、すでに百年史編集室も設置されて刊行に向けての具体的な作業が進んでいるとのことである。

七十五年史は、昭和59年（1984）11月に九州大学創立七十五周年記念事業委員会が設置され、その事業の一つとして年史の編纂が計画されたことに始まる。翌昭和60年3月の第1回九州大学七十五年史編集委員会で森洋文学部教授が委員長に選出され、5月1日に九州大学七十五年史編集室が設置されて、全学運用定員講師の私と折田悦郎助手が編集を担当することになった。

編集室は旧法文学部の階段教室の2階部分に置かれた。階段教室はこの建物で一番大きな教室で編集室としてのスペースは十分にあったが、法文系学部移転後に使用していた生産科学研究所と応用力学研究所が筑紫キャンパスに移転してからは長く使われておらず、建物全体が巨大な鳩の巣と化していた。このため天井裏に積み上がった大量の鳩の糞を掃除することから始めなければならなかった。もちろんコピー機やマイクロカメラなどの機器もなかったが、秋口にはこれらの機器も整備され、10月には事務補佐員も採用し、資料整理のための学生アルバイトも雇用できるようになって、本格的な活動が可能となった。

編集室が設置されて半月後の5月16日に第1回小委員会が開催され、七十五年史の構成を通史・史料編・写真集の3部構成とすることが了承され

た。小委員会は森洋委員長以下、有馬學文学部助教授をはじめ若手の助教授を中心に構成され、七十五年史の具体的な編集方針を検討するなど年史編集を主導した。

7月の第3回編集委員会において、『九州大学七十五年史』を通史・史料編・写真集の3部構成とすることが承認され、まず、昭和61年（1986）5月10日の創立七十五周年記念式典に向けて写真集を刊行することになった。北海道大学など他大学ではすでに立派な写真集が出されていたが、九州大学が写真集を編集するのは初めてのことであり、どこにどのような写真があるのかを調べるところから始めなければならなかった。学内だけでなく、退職教職員、卒業生に写真の提供を広く呼び掛け、新聞社などへも出かけて写真の収集を行った。写真集の編集はまったく未経験であったが、写真に詳しい生物環境調節センターの江口弘美教授に写真の見方や扱い方を教えていただき、なんとか記念式典に合わせて、『写真集 九州大学史 1911-1986』を刊行することができた。写真の面白さや近現代史における写真の歴史資料としての価値や可能性について考えられる貴重な経験となった。

写真集に次いで史料編を編集することになり、史料の収集を本格的に開始した。五十年史と同様、基本となる評議会・教授会資料の複写から取りかかったが、五十年史に比べて対象とする期間は半分の25年間であったにもかかわらず、部局の増設や会議資料の増加のため、史料の量はその数倍から十数倍に達し、マイクロカメラを使用してもその複写に予想以上の時間を要した。

また、昭和61年（1986）度からこの頃実用化されはじめたパソコンを編集室で使用するようになった。パソコンはのちに大きな威力を発揮することになるが、導入当初は大量の史料をどのように入力、整理すればいいのか戸惑うことが多かった。パソコンをはじめコピー機やリーダープリンターなど、編集作業にさまざまな機器を利用するようになったのも七十五年史の大きな特徴であった。

史料集は、九州大学で初めて編集することあ



『九州大学七十五年史』全5巻（昭和61年～平成4年）

り、九州帝国大学の創設前から昭和61年5月までの関係史料を収録することになった。また、一覧や統計は年表とともに別巻として、通史と同時に刊行することになった。関係する史料は膨大であり、これを2巻という限られた頁数のなかにもどのように収めるかは大きな問題であったが、上巻は福岡藩の医学教育機関である養生館から第二次世界大戦下の九州帝国大学時代まで、下巻は敗戦後の九州大学から昭和61年までの史料を収めることとし、平成元年（1989）5月に『九州大学七十五年史 史料編』上、下巻を刊行した。史料編を刊行した翌年の平成2年3月に森洋委員長が定年で退官され、4月から松下志朗経済学部教授が委員長に就任された。

通史については、昭和36年5月から昭和61年5月までの25年を対象とすることは決まっていたが、それ以前をどのようにするかについてはすぐには方針が決まらなかった。五十年史を復刻するという案や五十年史をダイジェストするという案などが出されたが、結局、創立前史から新制九州大学が完成する昭和30年頃までを、「序編、九州帝国大学時代」「第一編、新制九州大学の創設」として、五十年史を要約する形で叙述し、昭和30年代以降は、「第二編、高度経済成長と九州大学の発展」として七十五年史に再構成して組み込むことになった。したがって、七十五年史としては、「第二編、高度経済成長と九州大学の発展」、時間的には昭和30年前後から本格的な叙述が始まる形になった。

通史の具体的な内容については、小委員会で項目案を検討し、最終的な原稿は編集委員を通じて各部局で検討してもらい承認を得た。

昭和36年（1961）から昭和61年までの25年において、九州大学だけでなく全国の大学にとって大きな出来事は大学紛争であった。当時は紛争からまだそれほど時間も経っておらず、日々刻々と変わる紛争時の状況をさまざまな史料を突き合わせながら再現し、その背景や影響についても叙述が及ぶように努めた。また、五十年史では学術編という形で部局史が刊行されていたが、七十五年史では部局史は編纂しないことになったので、部局についてもある程度詳しく叙述するように努めた。

別巻については、折田助手が担当し、「第一部、一覧」「第二部、統計」「第三部、年表」の3部分に分けて、主要人事一覧、学内主要規則一覧、施設分布図、教職員数、学生生徒数、経費など、福岡



九州大学創立75周年記念写真展（昭和61年）
於創立五十周年記念講堂ホワイエ。前列右は田中健蔵学長。

医科大学以来の九州大学の基礎的なデータを網羅的に収録した。『九州大学七十五年史 通史』『九州大学七十五年史 別巻』は、史料編刊行から3年後の平成4年（1992）3月に刊行した。

このように、七十五年史編集室は、昭和60年（1985）から平成4年（1992）までの7年間に写真集1冊、史料編2冊、通史1冊、別巻1冊を刊行したが、年史編集は単に年史を刊行すればそれで終わりというものではなく、編集の過程で収集した史料をどのように保存し、それをどのように次の年史編集に繋げていくかという課題を抱えている。五十年史の編集終了時にも、執筆者の川添昭二講師（現九州大学名誉教授）が大学史料の恒常的収集・保存の必要性を訴えられたが、このときはその問題について十分に検討されることはなかった。

そこで、平成2年（1990）5月31日の第27回編集小委員会において、九州大学の史料の収集・整理・保存について検討するためのワーキンググループを小委員会に設置することが了承され、ワーキンググループを中心に検討が進められた。そして、平成3年（1991）4月19日の第30回小委員会に、ワーキンググループの報告書「九州大学史料の収集・保存について—九州大学史料室設置の提言—」および「九州大学75年史編集室主要収集資料仮目録」が提出され、5月の第11回編集委員会を経て、6月18日の事業委員会で承認された。7月9日には森良一事業委員長より高橋良平学長へ大学史料室設置の要望書が提出され、平成4年（1992）1月24日の評議会において「九州大学史料収集・保存に関する委員会規則」が制定された。これによって、九州大学七十五年史編集室は編纂事業終了と同時に九州大学史料室に改組されるこ

とになったのである。

史料の収集・整理・保存についての検討は、通史・別巻の原稿を執筆しながらの活動となったが、編纂事業が終了してからでは史料に対する学内の関心も薄れ、これを検討する組織もゼロから立ち上げなければならず、どうしても編纂期間中に方針を出す必要があった。通史・別巻の原稿執筆という点からは状況は厳しかったが、これを同時に行えたからこそ、史料の収集・保存も含めた年史編集という大きな目的を達成しえたのではないかと思う。

九州大学史料室は、その後九州大学大学史料室となり、さらに九州大学大学文書館へと発展し、平成23年（2011）4月には、「公文書等の管理に関

する法律」に基づく「国立公文書館等」の施設として内閣総理大臣の指定を受け、大学文書の保存機関に指定されたのは誠に喜ばしいかぎりである。

七十五年史は五十年史と百年史との繋ぎとして編集されたものであったが、五十年史編集時と七十五年史編集時とでは、大学自体も大学を取り巻く社会情勢も編纂事業を取り巻く環境も大きく変わっていた。七十五年史と百年史もそれ以上に大きく変わっていることと思う。こうした変化に柔軟に対応し、百年史が本格的な大学史として編集されることを期待したい。

（長崎大学経済学部教授）

福岡大学の年史編纂について

藤 本 俊 史

福岡大学の年史編纂事業

福岡大学は昭和9（1934）年に専門学校令により福岡高等商業学校を創始として設立された。昭和34（1959）年、創立25周年事業として最初の年史「福岡大学25年史」（全1巻A5版398頁）を刊行した。編纂委員長は学長の今村有。編纂方針は、「1.正確な根本資料を整理収集し、これを文章で継ぐ。2.年代的に学校名を表示して内容を盛る。3.関係の人たちに集まってもらって座談会を開く。」（25周年関係綴原文）とした。執筆は鳥巢時雄（事務局長）、東田隆次郎（事務長）、池田和次郎（法人事務所長）が担当。

昭和44（1969）年、創立35周年事業の一環で「福岡大学35年史」（全1巻A5版987頁）を刊行した。編纂委員長は学長の河原由郎。編纂方針は、「1.客観的に福岡大学の伝統に沿って記述した。2.学部学科、大学院の増設、教授陣の充実、教育研究施設の拡充、学生数の増加、教育研究の成果、など。」（35年史発行関係書類原文）とした。執筆は守田良衛（嘱託・元西日本新聞記者）。

創立50周年事業では昭和59（1984）年から同63（1988）年にかけて「福岡大学50年史」（全4巻A5版、1巻1,252頁、2巻835頁、3巻708頁、4巻543頁）を刊行した。編纂委員長は学長の伊東

正則（～宮野成二）。編纂方針は、各学部、付属機関、事務局、附属校、学友会、同窓会などから執筆された原稿をもとに作成した。その他、地元の新聞を資料として使用した。

以上の編纂された福岡大学の年史は「正確な資料」に基づいて「客観的」に編纂されるように方針としては掲げられていたが、何をもって「正確な」とするのか、何が「客観的」なのか、75年史編纂をしながら改めて読み直すと残念ながら読み取ることが難しい箇所が多々ある。確かに執筆者を誰にするのか、あるいは一人で書くのか複数で書くのか、各学部各部局それぞれに分担執筆をお願いしたときのバランスをどう図るのか、さらにいうならば「何が正しいのか」といった歴史編纂には必ず付き纏う難しい問題ではあるが、そのためにも歴史を編纂するにはまず史料の精査が必要であることは疑いがない。また大学の自己点検・評価と、位置付けられる大学史を編纂するという姿勢と記念事業の一つとして「記念史」を編纂するといった場合とでは、自ずとその方向性は異なってくる。

福岡大学75年史編纂

創立75周年事業の一環として、「福岡大学75年

の歩み」を編纂している。平成18（2006）年第1回の編纂委員会を皮切りに数度の委員会が開かれ、委員会の組織ならびに編纂業務、編纂内容等協議され、次のごとく決定した。

1. 目的

- ・創立75周年を記念し、「福岡大学75年の歩み」を刊行する。
- ・本学のこれまでの歩みを顧み、新たな学園づくりを探求する。
- ・「福岡大学100年史」に向けた基礎的な資料を調査、収集、整理、保存する。

2. 編纂方針

- ・福岡大学が教育・研究・医療など、これまで果たしてきた歩みを綴る。
- ・創立時から75年間を対象とするが、50年史以降（昭和59年～）を主とする。
- ・「福岡大学75年の歩み」は、写真・年表編、資料編、事典とする。

3. 実施組織体

（1）福岡大学75年史編纂委員会（実行委員会）平成18年4月立ち上げ

- ・構成員 委員長（学長が指名する者）、学部長、教務部長、学生部長、図書館長、研究推進部長、福岡大学病院長、福岡大学筑紫病院長、事務局長、大学史を専門とする教員（委員長が指名する者）若干名、75年史編纂室長、企画部長、広報課長。

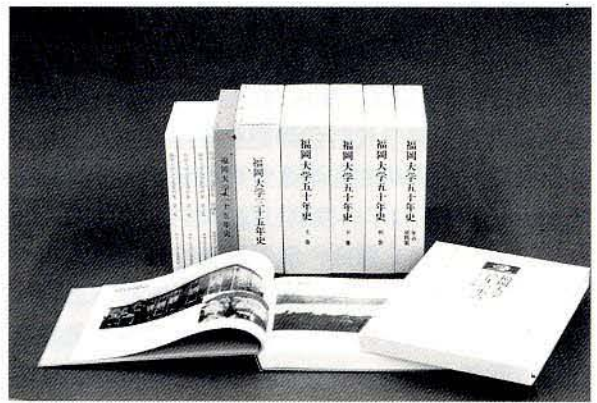
（2）福岡大学75年史編纂室

- ・業務 年史編纂に必要な資料の調査、収集を行い、執筆、編纂など具体的な業務を遂行する。
- ・構成員 75年史編纂室長（委員長が学長に推薦し、学長が任命した者）、75年史編纂室員、アルバイト若干名。

（3）担当事務課

- ・広報課

これらの編纂に関わる組織のもとで、進められている「福岡大学75年の歩み」（全3巻）のうち第1巻「写真・年表編」は、平成21（2009）年10月に刊行された。A4版横組み、348頁。「写真編」はこれまで紹介されていないものを含む498点の写真により、75年間の各時代を纏めた。また「年表編」は「総合年表」と「スポーツ年表」とに分けられ、昭和初年から平成21年までの事項を年表にした。特徴は、本書の年表事項と関わりのある写真が「写真編」にある場合にはその写真番号が付



福岡大学で刊行された記念史

してあり、相互的に利用ができるようになっている。

第2巻「資料編」は、A5版、400頁、平成23年12月刊行予定で現在作業が進められている。前身校（福岡高等商業学校、九州経済専門学校、福岡経済専門学校、九州専門学校、福岡外事専門学校、福岡商科大学）と福岡大学の設立に関わる設置認可申請書（国立公文書館所蔵）を中心に纏める。また参考資料として、歴代役職者一覧、学生数の推移、図書数、図書施設面積数等の統計資料を収める。この資料集は先に述べたように、一つの事項に関わる複数の資料があった場合、可能な限り客観的に扱え得る資料を選び、使用した。

第3巻「福岡大学事典（仮称）」は、A5版、300頁、平成24年度中刊行予定。福岡大学に関連する事項を事典（ハンドブック）として纏める。現在、まだ主要なワードを拾い集めている段階で事典全体がどのような体を成すかははっきりとは見えないが、第1巻の「写真・年表編」や第2巻の「資料編」ともリンクさせ全3巻が機能的な利用ができるようにしたい。

福岡大学大学史資料室

福岡大学は「福岡大学50年史」編纂終了後、平成元年5月「大学史資料室」を設置した。これは今後の大学アーカイヴスとして大学の資料を収集、整理、保存をする部屋として設置され、教育技術職員2名が配置された。教育技術職員は教育研究に関わる実験、実習などの補助、指導のほか「教育研究上の資料等の収集及び整備（規程第2条1項3号）」を行う職員で、原則として職場の異動がないため、専任として本業務に携わることができる。設置以降、50年史編纂で使用した資料の整理を行いながら、特に資料のデジタル化を進めている。

また「大学史資料室」ではこれまで「福岡大学史資料集」を第4集まで発刊している。第1集（A5版、357頁、平成14（2002）年3月発行）は福岡高等商業学校時代の昭和9年から九州経済専門学校時代の昭和20年までの教員会議議事録と昭和10年から同14年の教務日誌。第2集（A5版、481頁、平成15（2003）年3月発行）は福岡高等商業学校、九州経済専門学校、福岡経済専門学校、福岡商科大学の教務日誌、学校記録、教授会記録、新制大学への移行記録など。第3集（A5版、350頁、平成17年3月）は福岡大学名誉教授小川和男の日記。昭和16年の福岡高等商業学校から同23年福岡経済専門学校までの公私にわたる日記で、旧制の大学・専門学校に務める教員の考え方、外国語教育に対する考え方、学校の統廃合に直面する教員の心理などは大学史研究において意味深い。第4集（A5版、191頁、平成18年発行）は昭和16年福岡高等商業学校時代の式祭及諸種挙

行事項綴、防諜講演資料、福岡高商新聞（特に第二次大戦に突入していく頃の16、17年の抜粋記事）を所収。

最後に

福岡大学の年史編纂において、この「大学史資料室」の存在価値は大きく、大学が50年史編纂後に設置してくれたことの意義は大きい。とにかく資料の形態が異なる資料を継続し常時収集してきたからこそ「100年史」に繋がる資料が集まっている。それでもまだまだ収集できていない資料が多いが。

「75年の歩み」は「100年史」編纂のための基礎資料となるように位置付けられ編纂されているため通史は書いてない。資料典拠を明確にし、可能な限り、正確で「客観的」な「歩み」が見えるものを残したい。

（福岡大学75年史編纂室）

九州大学大学文書館委員会名簿

委員長	副学長	川本 芳昭	委員	比文院教授	高野 信治
委員	人環院教授	新谷 恭明	〃	言文院教授	恒吉 法海
〃	文書館教授	折田 悦郎	〃	応力研教授	新川 和夫
〃	人文院准教授	青木 博史	〃	総院准教授	山形 幸彦
〃	経院准教授	北澤 満	〃	韓七教授	松原 孝俊
〃	農院教授	内野 敏剛	〃	図書館館長	川本 芳昭
〃	情基七教授	田畑 義之	〃	博物館館長	竹田 仰
〃	芸工院准教授	岸 泰子	〃	総務部部長	島村 富雄
〃	薬院准教授	阿部 義人	〃	図書館部長	濱崎 修一
〃	生防研教授	中別府雄作			

（2011年7月1日現在）

九州大学大学文書館名簿

館長	副学長	川本 芳昭	テクニカルスタッフ	横山 尊	
副館長	人環院教授	新谷 恭明	〃	市原 猛志	
専任教員	教授	折田 悦郎	兼任事務職員	総務課長	石川 貴史
兼任教員	人文院教授	佐伯 弘次	〃	法令審議室長	太田 康治
〃	人文院准教授	山口 輝臣	〃	総務第二係長	大野真裕子
〃	法院教授	植田 信廣	事務職員		中村 俊郎
〃	法院教授	熊野 直樹	〃		日野 正道
〃	比文院教授	中野 等	事務補佐員		松尾 陳代
〃	シ情院教授	荒木啓二郎	〃		筑紫 啓子
専任教員	百年史准教授	藤岡健太郎	〃		小野 保和
〃	百年史助教	井上美香子			

(2011年7月1日現在)

（2011年7月1日現在）

受贈図書一覧（2010年7月～2011年6月）

九州大学文学部地理学研究室の30年		福沢諭吉辞典 慶應義塾150年史資料集 別巻2	
九州大学文学部地理学研究室	2010.9	福沢諭吉事典編集委員会	2010.12
看護のあゆみ		慶應義塾大学附属研究所斯道文庫開設50年記念	
九州大学病院看護部	2010.10	図説書誌学—古典籍を学ぶ	
燦燦 第19号		慶應義塾大学附属研究所斯道文庫	2010.12
「燦燦」発行事務局	2010.11	近代日本研究 第二十七巻	
吾 第82号～第86号		慶應義塾福沢研究センター	2011.2
九州大学造船会吾委員会		國學院大學院友会百二十年史	
	2007.2～2011.2	國學院大學院友会	2010.11
「知の加工学」事始め—受容し、加工し、発信する日本の技法		國學院大學院友会 発足120周年記念DVD	
松永典子、施光恒、吉岡斉編著 新宿書房		國學院大學院友会	2010.5
	2011.4	國學院大學 校史・学術資産研究 第三号	
大学・教養部の解体的終焉—新制九州大学のなかの教養部の足跡		國學院大學研究開発推進機構校史・学術資産研究センター	2011.3
加藤博和	1997.3	國學院大學研究開発推進機構紀要 第三号	
北海道大学大学文書館年報 第6号		國學院大學研究開発推進機構	2011.3
北海道大学大学文書館	2011.3	駒澤大学禅文化歴史博物館年次報告書（平成21年度）	
創立百周年記念事業 小樽商科大学の歴史へタイムスリップ		駒澤大学禅文化歴史博物館	2010.5
小樽商科大学附属図書館	2011.3	駒大史ブックレット10「図書館誌」にみる駒大図書館史【その6】	
東北大学史料館紀要 第6号		駒澤大学禅文化歴史博物館大学史資料室	
東北大学学術資源研究公開センター史料館			2010.10
	2011.3	成蹊学園史料館年報 二〇〇九年度 通号8号	
東京大学史紀要 第29号		成蹊学園史料館	2010.3
東京大学史史料室	2011.3	専修大学史紀要 第3号	
名古屋大学大学文書資料室紀要 第19号		専修大学大学史資料課	2011.3
名古屋大学大学文書資料室	2011.3	創価教育 第4号	
京都大学大学文書館研究紀要 第9号		創価大学創価教育研究所	2011.3
京都大学大学文書館	2011.2	拓殖大学百年史 大正編	
『戦後学生運動関係資料』Ⅲ 解説・目録		拓殖大学百年史編纂委員会	2010.7
京都大学大学文書館	2011.3	拓殖大学百年史 昭和前編	
年報 人間科学 別冊 Vol.32		拓殖大学百年史編纂委員会	2011.3
大阪大学大学院人間科学研究科社会学・人間学人類学研究室	2011.3	台湾・東洋協会研究 東洋文化協會五十年史稿	
大阪大学文書館設置準備室だより 第8号		拓殖大学創立百年史編纂室	2011.3
大阪大学文書館設置準備室	2011.2	玉川大学教育博物館館報 第8号 2009年度	
大学論集 第42集		玉川大学教育博物館	2010.8
広島大学高等教育研究開発センター	2011.3	玉川大学教育博物館紀要 第8号	
大阪市立大学史紀要 第3号		玉川大学教育博物館	2011.3
大阪市立大学大学史資料室	2010.10	タイムトラベル中大125 中央大学創立125周年記念出版	
恒藤記念室叢書1		中央大学入学センター事務部大学史編纂課	
大阪市立大学恒藤記念室	2011.3		2011.1
東北学院資料室 Vol.9		中央大学史資料集 第二十三集	
東北学院資料室運営委員会	2010.4	中央大学史料委員会専門委員会	2011.3

中央大学史紀要 第十六号		研究所報 No.57	
中央大学史料委員会専門委員会	2011.3	大谷大学真宗総合研究所	2010.10
日本大学のあゆみ 第一巻～第二巻		大谷大学真宗総合研究所研究紀要 2009 (平成21)	
日本大学広報部大学史編纂課		年度研究報告 第28号	
	2011.2、2011.3	大谷大学真宗総合研究所	2011.3
成瀬記念館 2010 No.25		如是我聞 第17号	
日本女子大学成瀬記念館	2010.7	大谷大学企画課	2011.3
立教学院史研究 第8号		立命館百年史紀要 第十九号	
立教大学立教学院史資料センター	2011.3	立命館百年史編纂室	2011.3
生誕150年記念 横井時敬の遺産		龍谷大学史報 Vol.11	
東京農業大学図書館大学史料室	2011.3	龍谷大学大学史資料室	2011.3
武蔵学園史年報 第十六号		追手門の歩み—世紀をこえて—	
武蔵学園記念室	2011.3	追手門学院	2011.4
Archive&Archives 01 創立六〇年史編集会議		学院史料 Vol.24	
オーラルヒストリー		神戸女学院史料室	2010.10
武蔵野美術大学大学史史料室	2010.10	関西大学年史紀要 第二十号	
神奈川大学史資料集 神奈川大学会議録 (十二)		関西大学年史編纂委員会	2011.3
第二十七集		桃山学院年史紀要 第30号	
大学史料編纂室	2011.3	桃山学院史料室	2011.3
金沢大学資料館紀要 第6号		西南学院史紀要 Vol.6	
金沢大学資料館	2011.3	西南学院百年史編纂委員会	2011.5
愛知大学東亜同文書院大学記念センター オープン・リサーチ・センター年報 4号～5号		平成20・21年度九州産業大学美術館年度報告書	
愛知大学東亜同文書院大学記念センター		No.4	
	2010.6、2011.3	九州産業大学美術館	2010.3
アルケイアー記録・情報・歴史— 第5号			
南山大学史料室	2011.3		
神宮皇學館大學—昭和十五年～昭和二十一年 第六回皇學館館史編纂室資料展解説資料			
皇學館館史編纂室	2010.10		

*大学史・高等教育史関係図書を中心に受贈図書の一部を掲載した。

大学文書館日誌抄録 (2010年7月～2011年6月)

7.1 (木)	福岡県立図書館より九州大学創立前史関係資料の件につき照会、回答。	同伴についての来館は省略。
7.5 (月)	医学部卒業生より福岡医学校の件につき照会、回答。	7.15 (木) 長崎市企画財政部世界遺産推進室員、資料調査のため来館。
7.6 (火)	建築史塾Archistより資料調査のため来館。	『ありがとう西浦分校 (DVD)』を制作、福岡市立北崎小学校に寄贈。
7.8 (木)	第4回九州大学百年史編集小委員会開催。	7.23 (金) 淑徳大学より大学文書館視察のため来館。
7.12 (月)	矢田俊文北九州市立大学長 (元九州大学副学長) より資料寄贈 (12月6日も同様)。	8.6 (金) 西日本新聞社記者、取材のため来館 (山川健次郎初代総長の件。20日、10月12日、1月7日、27日、2月18日、25日、3月4日、18日、22日、4月1日、18日も同様)。
7.14 (水)	西日本新聞印刷より『九州大学百年史写真集』の件につき来館 (以下、	8.9 (月) 統合新領域学府ライブラリーサイエ

- ンス設置検討ワーキンググループ開催（折田悦郎教授出席。9月28日、11月8日、12月6日、2月14日も同様）。お茶の水女子大学大学院学生、資料調査のため来館（～12日）。
- 8.11（水）飯塚市教育委員会より資料調査のため来館。
- 8.19（木）学務部学生生活課より資料受領。
- 8.24（火）大学院工学研究院教授、資料調査のため来館（9月7日、11月26日、12月21日も同様）。
- 8.27（金）学務部学務企画課より資料受領。福岡教育大学名誉教授、資料調査のため来館。
- 8.30（月）平成22年度公文書館等職員研修会（国立公文書館主催）、折田教授参加（於国立公文書館。～9月3日）。
- 8.31（火）附属図書館より資料受領。
- 9.3（金）大学院比較社会文化研究院准教授、資料調査のため来館。川本光治氏（元九大生協）来館、資料提供（17日も同様）。
- 9.8（水）附属図書館より資料調査のため来館。
- 9.14（火）折田教授、小野寺龍太名誉教授宅訪問、資料受贈。
- 9.15（水）大学院比較社会文化研究院教授、資料調査のため来館（～16日、12月16日、1月24日も同様）。田川市教育委員会より資料調査のため来館。
- 9.16（木）曾田豊二福岡大学名誉教授来館、資料提供。
- 9.21（火）折田教授、清沢眼科医院訪問、資料受贈。
- 9.22（水）アジア総合政策センターより資料受領。
- 9.24（金）原寛氏（医学部卒業生）来館、資料提供。
- 9.30（木）『九州大学大学文書館ニュース』第35号刊行。総務部社会連携課より資料調査のため来館（10月7日、8日、12日、13日、15日も同様）。
- 10.6（水）ふくおか経済記者、取材のため来館（九州帝国大学創立の件）。弘前大学医学部図書館より福岡医科大学初代学長大森治豊の件につき照会、回答。
- 10.9（土）折田教授、「九州大学の歴史と芸術—箱崎キャンパスで学ぶ—九州大学百周年記念事業特別講座—」講義（朝日カルチャーセンター福岡教室／九州大学文学部提携講座。於箱崎キャンパス21世紀交流プラザI。23日も同様）。
- 10.13（水）医学部広報室より資料調査のため来館。
- 10.14（木）中山宏明名誉教授来館、資料寄贈（29日も同様）。
- 10.18（月）工学部学生、大学院人間環境学府学生、資料調査のため来館（11月24日、1月14日も同様）。
- 10.19（火）九州大学広報室より資料受領。
- 10.20（水）大学院比較社会文化学府学生、資料調査のため来館（1月19日も同様）。
- 10.22（金）医学部同窓会より資料寄贈。
- 10.25（月）埼玉県立「川の博物館」より資料調査のため来館。
- 10.26（火）松尾陳代館員、小野大氏（法文学部卒業生）宅訪問、資料受贈。
- 10.27（水）大学院芸術工学府学生、資料調査のため来館。
- 10.29（金）貝塚地区事務部総務課より資料受領。
- 11.1（月）折田教授、竹下健次郎名誉教授宅訪問、資料受贈。川口晃氏来館、資料提供。
- 11.8（月）折田教授、「九州大学の創立年月について」説明（於九州大学エグゼクティブ・ミーティング）。
- 11.10（水）九州環境管理協会より来館、資料寄贈（12月20日も同様）。
- 11.12（金）貝塚地区事務部教務課より資料受領。
- 11.18（木）理学部等事務部より資料調査のため来館。
- 11.24（水）山崎信行名誉教授来館、資料寄贈。東京大学史料室員、資料調査のため来館。
- 11.26（金）国際部留学生課より戦前期留学生の件につき照会、回答。
- 11.30（火）第5回九州大学百年史編集小委員会開催。相原安津夫名誉教授来館、資料寄贈。
- 12.1（水）高橋義人氏（九大学生寮（田島寮）同窓会）より資料寄贈。

- 12.6 (月) 河田溥福岡大学名誉教授来館、資料寄贈。
- 12.8 (水) 学務部学生生活課より資料受領。
- 12.27 (月) 第13回九州大学大学文書館委員会(書面回議)。
- 1.27 (木) 朝日新聞社記者、取材のため来館(九州大学百年の歴史の件。2月3日も同様)。
長崎国際大学教授、大学文書館視察のため来館。
- 2.10 (木) FBS福岡放送局員、取材のため来館(旧六本松キャンパスの件)。
- 2.17 (木) 西日本新聞社記者、取材のため来館(九州大学百年の歴史の件。3月8日も同様)。
- 2.21 (月) 第14回九州大学大学文書館委員会(書面回議)。
- 2.23 (水) 内閣府、国立公文書館より大学文書館視察のため来館(川本芳昭館長、折田教授、総務部総務課長等対応)。
東京芸術大学美術学部教育資料編纂室より資料調査のため来館。
- 2.28 (月) 株式会社ゼンリンプリンテックスより取材のため来館(アインシュタイン来学の件)。
- 3.1 (火) 法学部卒業生、資料調査のため来館(5月23、6月1日も同様)。
- 3.4 (金) 北九州共立大学准教授、資料調査のため来館(8日、16日も同様)。
姫路市立美術館より資料調査のため来館。
- 3.8 (火) 西日本新聞記者、取材のため来館(九州大学百年の歴史の件)。
- 3.14 (月) 大学文書館第1・第2書庫引っ越し(～18日)。
- 3.16 (水) 早稲田大学国際情報通信研究センターより大森治豊関係資料の件につき照会、回答。
- 3.17 (木) 大学院人間環境学研究院教育学部門国際教育環境学研究室より資料寄贈。
- 3.23 (水) 塩川郁夫氏(元本学技官)来館、資料寄贈。
- 3.29 (火) 東京学芸大学教授、大学文書館視察のため来館。
- 3.31 (木) 「九州大学六本松地区模型」完成、大学文書館へ搬入。
陳昊氏、助教退職。
- 4.1 (金) 大学文書館、「公文書等の管理に関する法律」が定める「国立公文書館等」相当施設として、内閣総理大臣の指定を受ける。
井上美香子氏、助教就任。
統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻発足(8日専攻会議。折田教授出席。以下、同専攻関係については省略)。
- 4.13 (水) 折田教授、新採用職員研修「九大の歴史に触れる」を講義(於旧工学部本館会議室)、大学文書館案内。
2011年度前期「大学とはなにかーどうにも考えるー」開講。
- 4.26 (火) 第15回九州大学大学文書館委員会開催。
国立公文書館より「国立公文書館等」指定の件につき照会、回答。
- 5.9 (月) 「写真で見る九大百年」パネル、内覧会開催(於旧工学部本館一階会議室)。
- 5.11 (水) 『九州大学百年史写真集』、『九州帝国大学初代総長山川健次郎』刊行。
- 5.19 (木) 森茂暁福岡大学教授来館、資料寄贈。
- 5.24 (火) 大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻主催の記念講演「大統領図書館の歴史と役割」を附属図書館とともに共催(於福岡アメリカンセンター)。
大学院工学研究院教授、資料調査のため来館。
- 6.3 (金) 西南学院大学准教授、資料調査のため来館。
- 6.9 (木) 日本大学助教、資料調査のため来館。
- 6.15 (水) 法学研究院教授、資料調査のため来館。
福岡教育大学名誉教授、資料調査のため来館。
- 6.17 (金) 中山宏明名誉教授来館、資料寄贈。
- 6.20 (月) 大学院比較社会文化研究院教授、資料調査のため来館。
- 6.21 (火) 文学部歴史編纂室会議開催(折田教授出席)。
- 6.24 (金) 東京大学准教授、資料調査のため来館。
- 6.29 (水) 新キャンパス計画推進室より資料調査のため来館。

九州大学百年史編集小委員会名簿

委員長	人環院教授	新谷 恭明	委員	人文院准教授	山口 輝臣
委員	法学院教授	植田 信廣	〃	シ情院教授	荒木啓二郎
〃	文書館教授	折田 悦郎	〃	法学院教授	熊野 直樹
〃	比文院教授	中野 等			(2011年9月30日現在)

九州大学百年史編集室名簿

室長	人環院教授	新谷 恭明	テクニカルスタッフ	市原 猛志
専任教員	准教授	藤岡健太郎	事務補佐員	尾川 真澄
〃	助教	井上美香子	〃	小野 保和
テクニカルスタッフ		横山 尊		(2011年9月30日現在)

百年史編集室日誌抄録 (2010年10月～2011年9月)

10.4 (月)	医学部等教授会議事録撮影(～22日)。	4.18 (月)	芸術工学部等教授会議事録撮影(～7月5日)。
10.25 (月)	薬学部等教授会議事録撮影(～11月8日)。	5.11 (水)	『九州大学百年史写真集』刊行。
11.10 (水)	歯学部等教授会議事録撮影(～12月7日)。	5.23 (月)	芸術工学部資料調査。
11.15 (月)	工学部等教授会議事録撮影(～12月28日)。	6.1 (水)	小野保和氏(事務補佐員)着任。
11.30 (火)	第5回百年史編集小委員会(通史編目次案、旧教養部編の扱い等を審議)。	7.19 (火)	農学部等教授会議事録撮影(～8月19日)。
12.3 (金)	システム情報科学研究院等教授会議事録撮影(～17日)。	8.3 (水)	第7回百年史編集小委員会(部局史編編集マニュアルの改訂、資料編編集方針、通史編目次案等を審議)。
12.9 (木)	生体防御医学研究所教授会議事録撮影(～24日)。	8.26 (金)	第7回百年史編集委員会(部局史編編集マニュアルの改訂、資料編編集方針、通史編目次案等を審議)。
12.28 (火)	統合新領域学府教授会議事録撮影。	8.29 (月)	情報基盤研究開発センター等教授会議事録撮影。
1.11 (火)	総合理工学研究院等教授会議事録撮影(～2月18日)。	9.6 (火)	法文学部教授会議事録撮影(～7日)。
1.19 (水)	応用力学研究所教授会議事録撮影(～2月21日)。	9.8 (木)	法学部等教授会議事録撮影(～12日)。
2.3 (木)	健康科学センター教授会議事録撮影(～23日)。	9.13 (火)	経済学部等教授会議事録撮影(～14日)。
2.10 (木)	先端物質化学研究所等教授会議事録撮影(～22日)。	9.20 (火)	教育学部等教授会議事録撮影(～26日)。
3.1 (火)	第6回百年史編集小委員会(書面回議)(通史編目次案を審議)。	9.27 (火)	文学部等教授会議事録撮影(～30日)。
3.31 (木)	陳昊氏(助教)退職。	9.30 (金)	尾川真澄氏(事務補佐員)退職。
4.1 (金)	井上美香子氏(助教)、尾川真澄氏事務補佐員)着任。		

§『九州大学百年史写真集』の刊行について

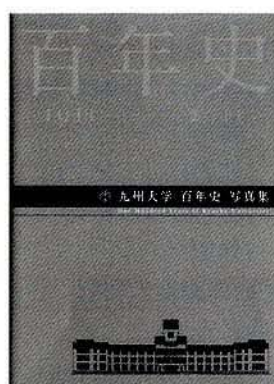
九州大学では、九州大学百周年記念事業の一環として、『九州大学百年史』の編纂を行っていますが、このたび、その1冊目として、『九州大学百年史写真集』を刊行しました。この写真集では、創立前史からの130年以上にわたる本学の歴史と現況を、建物・人物・行事・学内風景・関連資料等の写真・図版で紹介しています。その数は1,100点以上にのぼり、歴史的に貴重な写真も多数含まれています。

写真集の編集には大学文書館の折田悦郎教授・藤岡健太郎准教授が当たり、百年史編集委員会の先生方、桂木勝彦氏（カメラマン）をはじめとする学内外の数多くの方々にご協力いただきました。

なお、同写真集は一般の皆様も購入できるよう、九州大学生協で販売するとともに、ファックス及びインターネット（九大生協）による通信販売も行っています。

ご購入のお問い合わせ

九州大学生協 生活協同組合 TEL：092-651-1529 FAX：092-642-4788 <http://www.coop.kyushu-u.ac.jp/>



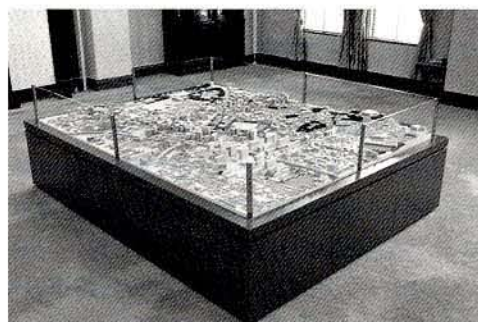
『九州大学百年史写真集』構成 (A 4版280頁)

- 第一章 創立前史
- 第二章 九州帝国大学の創立と発展
- 第三章 戦前戦中期の九州帝国大学
- 第四章 新制九州大学の発足
- 第五章 大学紛争と改革の模索
- 第六章 九州大学の再編
- 第七章 現在の九州大学
- 資料編

§九州大学六本松地区模型について

大学文書館では、平成21年（2009）までに六本松キャンパスとして使用されていた旧六本松地区の模型を製作しました。六本松地区は、当初大正10年（1921）に創立された官立福岡高等学校（旧制福高）の地でしたが、戦後、新制九州大学の第一分校（昭和24年）、次いで分校、教養部となり、最後は比較社会文化研究院、言語文化研究院、高等教育開発推進センター等の入る所となりました。

同模型は、平成22年度現在の様子を、六本松の街との関係も解るように製作しています。六本松生が暮らした田島寮も復元しました。この模型が、九大人にとって懐かしく、また貴重な史料となるだけでなく、新しい六本松の街造りにも役に立てれば幸甚です。



九州大学大学文書館ニュース 第36号

発行日 2011年12月15日（年2回刊）

編集 九州大学大学文書館
発行

〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1

Tel:092-642-2292 Fax:092-642-7646

Kyushu University Archives

印刷 株式会社ミドリ印刷